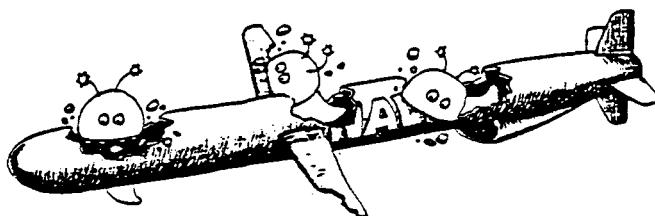


月刊反トマホーク通信

No. 19
87.5.20
定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎ 03(498)6095

海の軍備撤廃をめざす国際ウイークエンド



PACIFIC CAMPAIGN TO DISARM THE SEAS

2257 Makanani Drive • Honolulu, Hawaii 96817 • (808) 845-6328

WEEKEND TO DISARM THE SEAS

NEW ZEALAND: Aukland JAPAN: Yokosuka,
Kamiseya, Fukaya, Zushi, Kure, Yosami
AUSTRALIA: Perth MAURITIUS: Vacoal UNITED
STATES OF AMERICA: New York, Albany, NY, San
Francisco, San Diego, Centerville CANADA:
Victoria, Nanoose Bay DENMARK: Aarhus,
Copenhagen ENGLAND: Herne Bay, Saltburn,
Cleveland, Portsmouth IRELAND: Dublin,
Galway ICELAND: Reykjavik ITALY: Leghorn
Napoli-Ponticelli NORWAY: Tromso, Alesund
Christiansand, Bergen SCOTLAND: Dundee,
Glengarry, Inverness-Shire, Greenock to
Dunoon on Clyde side

5/29~31

(案内は3ページに!)

吳 依佐美 横須賀 上瀬谷

トマホークの配備を許さない！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）

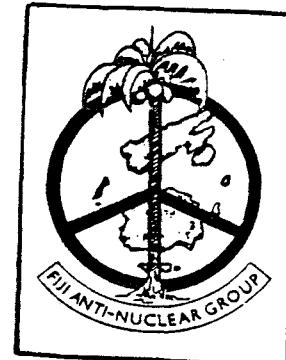
団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員

年間 2000円

あなたも仲間に！

斐ジー政変と 非核太平洋



ちょうど一ヶ月前の4月12日の総選挙でイギリスからの独立以来はじめて政権についたババンドラ（労働党＝国民連合党）政権は外交政策として非同盟運動に加わると同時に、「核艦船の寄港を拒否すること」を公約して、ニュージーランド、バヌアツ、ソロモン諸島について四つの「非核政権」が南太平洋に出現したのである。

政変の背景にはババンドラ政権の支持基盤であるインド系住民と、前政権（同盟党）を支持するメラネシア＝ポリネシア系住民の对立があることはまちがいない。しかし、「キウイ病」（ニュージーランドの非核政策の国際的波及力を核推進側の人々はこのようによんでいる）の蔓延の具体的あらわれであるババンドラ政権の登場の持つ衝撃力を思えば、オーストラリアのワイス教授が14日に語ったように「米国の影響力を全く否定するわけにはゆくまい」（15日付「朝日」）。

実際、昨年12月米国の核持ち込みを認める

内容の「自由連合協定」を巡るベラウ共和国の国民投票（結果は否決）においても、この8月に予定されているニュージーランド総選挙をめぐっても米国＝CIAはすさまじい介入を繰り返していると現地の反核運動の人々は訴えているのである。

太平洋の小國の人々にとって、「核」を巡る選択は「自立」と「自主決定」と奥深いところで関わっている。そして、人々がみづからの意思で新しい歩みを始める時、いやおうも無しに核大国間の「冷戦力学」の場になじまれることになる。斐ジーで今起こっている事態は、そのことを生々しく私たちに教えているのではないか。

米国のお先棒を担いで、援助金バラまきの「新太平洋構想」を打出している日本政府が、勢で臨むのかを注意深く監視する必要がある（ニュージーランド、オーストラリア両政府はすでに新政権不承認を表明した）。

南の島々の人々への最大の支援はこの日本でも「キウイ病」を蔓延させることだ。たとえば、核艦船の入港を本当に止めてみせる」と。それは私たち自身の「自治」と「自主決定」に深く深くかかわることだ。

（編集部 田巻一彦 五月十八日記）

各地ガウ

吳・依佐美・横須賀で国際ヴィーグエンド、人吉（熊本）では反VLF相談会。

〔首都圏〕

「核艦船の止め方」青空ティーチイン

とピースウォーキング

●5月31日（日）午後1時半から

●横須賀市臨海公園

●主催 実行委員会（反トマ首都

圏運動／カトリック正義平和と協

議会／かながわ非核文化交流会／平和

事務所／非核市民宣言運動ヨコス

カなど10団体）

米国の対潜水艦向け超長波送信基地に対する抗議行動も今年で二回目になる。トマホーク阻止京都連絡会の仲間も合流する。

反戦の会（〇五一・七六二・五一

一八）

〔愛知〕

「なべせーおい出せー依佐美基地

5・31集会」

●5月31日 午後1時から

●刈谷市勤労会館

●主催 核も安保もいらない愛知

反戦の会（〇五一・七六二・五一

一八）

〔人吉〕

「VLF（超長波）送信所建設に

反対する人吉相談会」

●5月23日（土）24日（日）

●熊本県人吉市相良莊

●呼掛け 毛利淳一（いま、鹿児

島で何ができるかを考える会）

石崎昭哲（福岡共同行動）佐々木

竹一（佐世保軍問研）ら七氏

この相談会は反VLFキャンペーンを全九州規模で展開するためのもの。スライド「あぶない！VLF送信所」も完成した。当日は

スライド上映、状況説明のあとキャンペーン

の具体化について話し合われる。24日には現地

調査も。会議のもう一つについては次号「反ト

マ通信」で。「VLF送信所に反対する九州

住民ネットワーク（準）〇九六・三四五・

五九〇四 くまもと市民センター／松平薰

〇九六六・一四・四九〇一】

横須賀海軍基地をのぞむ会場でのティーチインと展示。テーマは*非核コードと反核ボットライン*核艦船差止め訴訟*横須賀定例一万人デモ*平和船団*もうひとつのチャエルノブイリ*非核アジア太平洋。出店、ミニコンサート、ビデオ上映、平和船団体験航海めり。集会後、市内をデモ。

5月29日には、横浜市北西の上瀬谷通信基地をピース・ウォーキングが出発する。（主催は「上瀬谷基地はいらぬウドの会」）深谷通信基地、池子弾薬庫跡地を巡り住民と交流・31日の集会場に到着する。なおこれには日本山妙法寺主唱の平和行進が合流、3日間の行動を共にする。

●5月30日（土）午後

●主催 トマホークの配備を許す

な

な吳市民の会

イギリス

ヘーネ湾 海辺で風船を飛ばす。平和船団の小航海。（ヘーネ湾CND）

ソルトバーン(クリープランド) 詳細は未定（ラングボーリー平和運動）

ポートマス 湾内の平和船団航海と陸上でのビラまき。（ポートマスCND）

アイルランド

ダブリン アイルランド非核化と核艦船入港による潜在的危険性を訴えて海上デモ。地方議会、港湾管理者および政府に申入れ行動。メッセージは「ダブリンに軍艦をいれるな！」（ポート・ウォッチ・ダブリン）

ギャルウェイ 身寄りのない人々への援助運動と共にチャリティーコンサート。テーマは海軍の軍事支出を貧しい人々のために振向けること。地方議会、港湾管理者への申入れも。（行動的非同盟軍備撤廃グループ）

スコットランド

ダンディー 30日、長さ1マイルのティ・ブリッジで1500人の人間の鎖。その後ホールでフェスティバルとコンサート。29日にエゼル英空軍基地を出発したピースウォークが到着する。（ダンディーCND）

デンマーク

アルハス 國際ウイークエンドを期して核艦船寄港に反対する2年間のキャンーンがスタートする。世界中の海軍のブラック・リストとともに展開する。平和船団も発足。（アルハス北大西洋ネットワーク）

コペンハーゲン 新たに発足した平和船団が航海。（コペンハーゲン北大西洋ネットワークグループ）

ノルウェイ

トロムソ トロムソ港の非核のための海岸での集会。（核兵器にノー・トロムソ）

アレンド 町の中心部での屋外集会。ディスカッションと風船行動。テーマ「核兵器は北海から出ていけ！」

アイスランド

レイキャビク 討論集会（反基地キャンペーン）

クリスチャンサン 港および周辺で風船飛ばし、タコ上げ、ポートセイリング、音楽、模擬店等。地元紙への意見広告掲載。（核兵器にノー）

ベルゲン コンサート、集会、非核カフェ（核兵器にノー）



ニューヨーク 30日、戦艦アイオワの母港化に反対して集会とデモ。海上デモ（ポートセイリング）も。（港の非核化のための連合）

アルバニー(ニューヨーク) ニューヨークの下町で、海軍が新しいロス級原潜に町の名前を付けようとしていることに抗議デモ。（16日）29日にはクノールズ原子力研究所へのビラまき。同研究所はトライデント原潜乗組員の訓練が行われている。6月13日、ニューポート・ニュース海軍造船所でロス級原潜の建造に抗議デモ。（クノール・アクション・プロジェクト、非核アルバニー連合）

海の軍備撤廃をめざす国際ウイークエンド

1987. 5



イタリー

レグホン 海軍大学、英、仏、スペイン大使館、イタリア政府、自治体、港湾管理者への申入れ（Chinese Evangelica Valdese）

グレンギャリー(インヴァーネスーシャイヤー) 30日、計画されているELF（極長波）通信基地（トライデント用）建設に反対して20マイルのウォーキング。（ハイランド地域CND）

モーリシャス

ヴァコール 大学でインド洋の軍事化に講義する集会。米海空軍の緊急展開基地化のためイギリス政府によってディエゴガルシアから退去させられた人々のための記念碑の除幕式。

オーストラリア

バース 地と核艦船寄港に関するテレビ討論と郊外での戸別訪問。テーマはインド洋の非軍事化（PND…核廃絶の人々）

グリーンノックからダヌーン・オンライン・クライドサイドまで 31日、湾岸の英・米海軍基地をめぐるクルージング。船上イベントも。



日本

呉 依佐美 橋須賀
内容は前ページに

カナダ
(太平洋および北大西洋沿岸)

ビクトリア 30日、シティー・ホールからエスキモルト海軍基地まで5kmのパレード。同基地は、核艦船の寄港地であり、カナダ太平洋艦隊の基地でもある。現地では歌や集会、持寄りの夕食会、討論など。（大ビクトリア軍備撤廃グループ）

ナスース湾 29日、船による湾入口の封鎖。テーマはジョージア海峡での兵器テストを止めろ！（ナスース転換キャンペーン）

ニュージーランド

オークランド 5月29日昼休みの街頭シアター（海の軍備撤廃を！太平洋運動 NZ）

アメリカ合衆国
(太平洋および北大西洋岸)

サンフランシスコ湾 30日、トレジャー島沖で平和船団の演習航海。港の非核化、中米への軍事介入反対などがテーマ。（沿岸地域平和船団など）

サンディエゴ(カリフォルニア)
31日、ドック前での抗議行動と海上デモ。テーマは「命のために海を蘇らせよう」（生存のための連合、サンディエゴ平和資料センター）

センターヴィル(カリフォルニア)
30日、海軍のSOSUS（対潜水艦水中監視網）のステーションへの抗議デモ（センターヴィル・アクション・グループ）

唐無森な主張だ。自分の半分以下の価格の軍艦を護るというのは噴飯物。いずれにしても護るべきものは他にある。

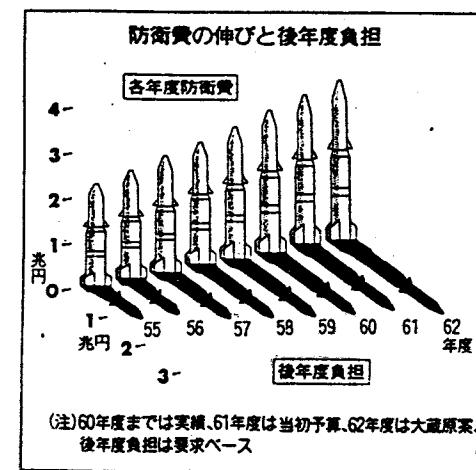
「海洋戦略」への加担

北西太平洋では自衛隊と補完関係にある米軍の戦略を眺めればこの謎はすぐ解ける。よく知られているようにレーガン政権の戦略家たちは、これまでの「核による抑止」よりもむしろ「抑止が破れた時」、平たく言えば核使用を含む米ソの直接対決について多くを語ってきた。これは「海洋戦略」という漠とした名を付けられているが、戦略としては極めて具体的なものだ。

主戦場はソ連本土に隣接した海域。獲得目標は「米国に有利な条件で戦争を結ぶさせる」とこと。太平洋での主役は五個の米空母機動部隊。天下無敵の存在だが、一抹の不安はソ連の爆撃機バックファイヤーから空母めがけて発射される長射程の（三百キロ）のミサイル。その不安を解消するのがかの中曾根首相のは「バックファイヤーに対する巨大な障壁を築くこと」と言うが、これをより具体的に展開しているのが防衛庁内に昨年新設された「防衛改革委」の「海上防空構想」だ。

国民の田を歎くために、我が政府は一%枠といいう数字のマジックの他に、もうひとつ手品を駆使してきた。ローンで兵器を買いい

ローン地獄の軍事費



今年だけで福沢諭吉換算で三百五十トン、（三兆五千億円）もの札束が防衛費と称して空しく捨てられる。これはどう使われるのか？

「海洋戦略」と日本の軍拡

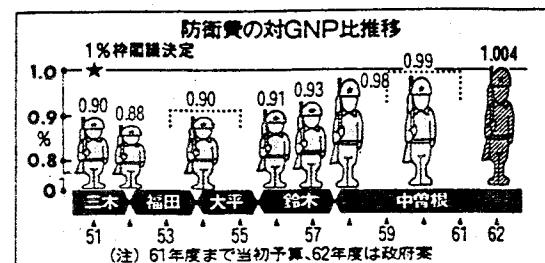
GNP 1%枠突破の推進力

青木雅彦（京都）

一番笑つたのは誰か？

世界第二位の軍事大国？

「越えたと言つても〇・〇〇四%だけ。ほんのちょっぴり顔を出した程度」といういつになく「謙虚」な中曾根首相の姿勢に幻惑させられたか、売上税の「神風」がついでに吹飛ばしてしまったか、ついに軍事費のGNP 1%枠突破問題は国会で本格的に論じられることはなかった。政府自ら儲けた「上限」を自ら取払うという慣例がこれで確立した訳で、「ちょっとぴり」の突破で大きな政治的成果を得た防衛庁やベンタゴンの高笑いが、反売上税闘争「完全勝利」の勝ちどきの後ろから聞こえては「ないだろうか？」



エインズ皓の謎

七六年の三木内閣の一%枠決定は軍事費の「上限」設定の非常に巧妙な表現だった。実際には分母すなわち天井が年々高くなるのに、軍事費は何かしら一定であるかの様な錯覚を与えることができた。国家予算ではなく（対予算比は八七年六・五%）、巨大なGNPを分母にすることで「わずか1%」とこう印象を与える効果もあった。

防衛白書などに掲載されている各国国防費リストを見ると、八四年度日本は九位に留っている。しかしこの「ミリタリーバランス」に掲げたリストは一ドル＝一四四円で換算さ

れている。これを最近のレートで計算すると、軍事費（NATOでは含まれる国が多い）を加えると、英國を軽く抜去つて米ソに次いで世界第三位の軍事大国になってしまう！しかし日本政府はこの服さえ窮屈だと感じたのだ。シーリングを設けるなど以ての他。それでは何のために必要などいうのか？

「」数年の自衛隊の装備を規定するのが、中期防衛力整備計画（八六～九〇年）といいう総額十八兆円のショッピングプランだが、政治的な配慮からすべての買物計画が公表されているわけではない。折にふれて意図的にリークされる情報を加味して、国民は要約そのショッピングリストの中身の概要を知る。これらのリストの中でとりわけ目を引くのが「エイジス（盾）」と呼ばれる防空用の軍艦。二百五十目標を同時に捕捉・識別できるのも驚きだが、一千億円という価格がすごい。防衛省は民間の船舶を護衛するためと言うが、積載ミサイルの射程はせいぜい百キロ。広大な海洋で半径百キロの田字一つ（計画では一隻購入）がいかに頼りないものであるか考えれば、荒

日本の軍隊は向をしようとしているのか? 最

近政府は「中期防」の金額の詳細を国会に提出する」とを拒否した。そこで、上更で作り、これについて詮索すべく御法度にしようとする支配者たちの組心の「配慮」

・統帥権が天皇にあり国民はその中身たつて口を出す」とさえ禁じられた時代とどれだけ異なるところだろう。具体的で丁寧な暴露のできる反戦派の登場が今ほど待たれてる時はない」と思つ。(八七年五月十一日記)

(付記) 紙数の都合で米「海洋戦略」を書けなかつた。これについては以下の雑誌などを参考にして下さ。
「アマホーク通信」(No.10), 「世界政治」(八七年十月上号), 「軍事民論」(四八号)
「世界」(八七年六四期)。

TAKE BACK THE CAPE IN '88



Are you a Cape Crusader?

60年安保、核密約の現実

（三）
60年安保、核密約の現実

米は有利な運用を主張

「通過」には幅広い定義

日刊反トマホーク通信 No. 19

*発行

一九八七年五月一日発行

アマホーク通信編集委員会
（東京都渋谷区渋谷一丁目一十九ビル
青山五丁目一ノ一アマホーク出版社
100円（通信会員年間2000円）

*

編集

反アマホーク通信編集委員会

100円（四九八）六〇九五